

霧多布島のラッコたち出版事業

「ラッコ 霧多布の海に生きる」

NPO 法人エトピリカ基金 片岡義廣

ラッコは一度日本では絶滅した動物です。毛皮目的の乱獲により北太平洋に広く分布し 30 万頭いたラッコは 2000 頭程度まで減少したと言われています。その後の保護により回復を始め北海道本土にも現れるようになりました。ラッコは人気も高く以前は水族館に多数いたのですが、現在は 7 頭しかいなくなっています。その代わりといっ



ては何ですが、野生のラッコが増えつつあるようです。浜中町霧多布でも以前からラッコが見られていましたが、2016 年から雄 1 雌 2 のラッコが霧多布の湯沸岬付近で見られるようになったのです。当 NPO では海鳥中心に活動してきましたが、同じ海に住む仲間である海獣にも注目しゼニガタアザラシ繁殖地の発見もしていました。そこで雌雄のラッコが見られたことから 2017 年から 3 年計画でラッコの調査にも着手することにしました。まず本当に一年中居ついているのか、そしてここで繁殖するのか、そして継続した繁殖地となるかを調べることを目標としました。

一年目の 2017 年には 3 頭そろって住み着いているのが分かりました。二年目には 1 頭のメスが子供を生み、根室のモユルリ島につづき 2 番目の繁殖地となりました。三年目にはもう 1 頭の雌も子供を生み、前の雌も再び繁殖し複数継続し繁殖する地となったのです。ただこの期間に生まれた子供で無事親離れまで育ったのは 1 頭だけでした。ラッコは海底にいるウニや貝類やカニなどを食べています。ウニの養殖が盛んになってきている浜中町での漁業との軋轢も心配されます。湯沸岬は通称霧多布岬で観光地でもあり遊歩道も整備されていますので、陸から見えるラッコは注目されるどころです。何より、地元の海にラッコが住んでいるという素晴らしさを子供達を中心とした町民の人達に知ってもらい、ラッコという動物とどのように関わっていくのか、考えてもらうきっかけになる本をつくりたいと思っていました。



今回の助成により本を作るにあたり、3 年間の調査結果も含めまずはラッコとはどういう動物なのかを知ってもらうことを一番としました。子供達にはラッコの魅力やラッコのいる地元の海の素晴らしさを写真で伝える「写真読本」的な本にしたつもりです。嬉しいことに浜中町の全小中高生を中心に配布したのですが、保育園の子供たちにも欲しいと要望が上がったことです。助成していただいた前田一步園財団さんには感謝いたします。

○内容：A5 版 104 ページ

霧多布に住み着いたラッコたち、春から冬になる前のラッコたち（浮かぶ・泳ぐ・潜る・跳ねる・岩に上がる・餌をとる・石を使いポケットがある・好奇心・ハンターの血が・

絡み合う・繁殖6か月の子育て）、厳冬期のラッコたち。

霧多布のラッコは増えていくのか、それともまた減少に向かうのか、それは分かりませんが彼らが安心して暮らせるように観察や撮影のガイドラインが必要となるでしょう。今後はそういったことも早急に考えていきたいと思っています。

